正社員0.88倍 高水準

県内11月の求人倍率

神奈川労働局が26日発表した県内11月の有効求人倍率（季節調整値）は1・19倍だった。前月からは0・02ポイント下落したものの、24カ月連続で1倍台を維持した。

正社員の有効求人倍率は0・88倍と前月から0・02ポイント、前年同月からは0・14ポイントそれぞれ伸びた。倍率は6カ月連続で上昇し、集計を始めた2006年4月以降で最も高い水準だった。

宿泊業やサービス業など、これまでパートの募集が多かった業種でも正社員の求人が増えているようだ。産業別の正確なデータはないが「卸売業関連などでも正社員の求人が増加傾向にある」（労働局）という。

前月に比べて有効求職者数が増え、有効求人数が減ったため有効求人倍率は下落した。ただ「求人の減少は一時的なもので、大きな傾向として求人は今後も増えていく」（同）見込みだ。

パートよりも正社員を増やした方がよい」と労働局が働きかけていることもあり、正社員の需要は今後も強まる可能性がある。

横浜港輸出額15%増 11月

横浜税関がまとめた11月の貿易速報によると、横浜港の輸出額は前年同月比15・3%増の615億円と7カ月連続で前年を上回った。中国向けのフラットパネルディスプレー製造用機器やロシア向けの自動車などの輸出が伸びた。

主要品目ではロシアや中国向けが伸び6・7%増の[illegible]億円だった。[illegible]・2%増の3[illegible]火力発電所[illegible]ビン用部品が[illegible]ーシアや、建[illegible]ンジンの需要[illegible]国向けが拡大[illegible]車部品はイン[illegible]タイ向けが伸[illegible]%増の28[illegible]

地方の[illegible]

地域[illegible]

訪日客に人[illegible]絶景を掘り起[illegible]一般財団法人[illegible]化センター（[illegible]は自治体向け[illegible]で空撮する技[illegible]めた。農山漁[illegible]ドローンなど[illegible]グルで撮影、[illegible]るネット発[illegible]る。訪日客は[illegible]

神奈川

つ・む・ぐ

横浜にママ友交流カフェ

孤育てやめ社会参加を

NPO法人こまちぷらす代表 森 祐美子さん

もり・ゆみこ 1982年横浜市生まれ。慶応義塾大学総合政策学部卒。趣味は家族で登山。今夏は山梨県の瑞牆山に登った。

公園や保育園では「ママ友」同士が悩みを相談しあう風景が見られるが、室内でゆっくり座ってくつろぎながらとなると場所は限られる。NPO法人こまちぷらすの代表・森祐美子（34）は横浜市戸塚区に意見交換できるカフェを設置。孤立してしまう「孤育て」をなくそうと子育て世代の社会参加を促す取り組みも進めている。

戸塚駅から歩いて7分ほど、マンションの2階にある「こまちカフェ」。靴を脱いで上がるとローテーブルと遊具がそろう。

カフェのメニューの価格設定は一般的なカフェと同じか少し高め。重視しているのは事業の継続性だ。森も2人の子どもを持つ母親として、行政が運営する低価格のカフェなどが予算不足から廃止になるのを見てきた。「人やモノへの投資をしないと続かない。適正価格の利益を原資に新しく事業も始められる」

バリバリのキャリアパーソンだった。学生時代は新潟県で街づくりに関わり、卒業後はトヨタ自動車に入社。すぐに中国の営業担当になり、物流網の「カイゼン」に向けて現地の事業者との交渉に携わった。

3年目に子どもができて生活は一変する。仕事に例えると「入社翌日に先輩も上司もおらず、目の前には言葉の通じない現地人だけ」がいるような状況だったという。交流サイト（SNS）を見ると、周りは子育てがうまくできているように見える。自信をなくしていった。

転機は戸塚に子育て施設をつくるので意見をほしい、という内容の1枚のチラシだった。20人ほどが集まる会場で自分の意見を話すと、なにかが満たされていくのがわかった。「子育て中に社会と関わることの大切さに気づいた」

2012年、ママ友に声をかけて子育ての課題解決を探る取り組みとして「こまちぷらす」を始めた。カフェを平日営業に切り替えようというタイミングで、運営について内部で意見が割れた。「子育て世代の負担を少なくしないと」「飲食店として運営できないと続けられない」。壁にぶつかった。スタッフは半数がやめた。

「みんなの意見を聞こうとして八方美人的に振る舞ってしまったのが原因」と悔やむ。今は月に1度店を休み、ミーティングを開いて運営の議論をする時間を設けるなどコミュニケーションの機会を充実させる。

事業の持続的な発展に向け、地域や社会問題に関わる「担い手」育成のセミナーなども定期的に開く。「子育て世代の『何かやりたい』という思いを形にできる手伝いを続けていく」と考えだ。

＝敬称略

（松川文平）

☎ 横浜支局 045-201-2551
川崎支局 044-222-7793